職員アンケート　A＝できている　B＝どちらかといえばできている　C＝どちらかといえばできていない　D＝できていない

## ②自己評価および外部評価項目（55項目）

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 職員アンケート | 自己評価 実践状況 | 委員からのご質問 外部評価項目 | 委員からのご質問 その他の項目 | グループホームからの回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | B | 今年度は法人理念の１番目にある「ゆったりとその人らしさを受けとめる」に重点を置き、入居者の個別性を意識してケアを展開した。会議で理念をふり返る機会を増やした。 | ・どのような理念を掲げているのか教えてほしい。<br>・会議でふり返るというのは、どのような手法か。<br>・いつも目に付くところに貼り出すなど、共有の実践に努めてはどうか。 | | 法人理念<br>①ゆったりとその人らしさ受けとめる<br>②常に自分をふり返る<br>③地域福祉活動への積極的参加と推進<br><br>・会議レジュメに時折理念を掲載して確認。<br>・玄関に掲示しているが、出退勤時に目に付く場所に掲示、印象を刷新するなど工夫します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | B | コロナ禍で外出制限は続いたが、獅子舞や防災訓練など、地域の一員として参加している。カフェや文化祭への参加が再開できないのは残念。地域の中で散歩。広報紙は地区の全戸に配布。 | ・コロナの制限下でも工夫して積極的に取組み、地域に開かれた事業運営ができている。<br>・コロナの規制緩和が5月の連休明けと政府が決定したので、感染予防しながら内外で自由な行動ができることを願っています。<br>・国においてはコロナ禍からの制限緩和が検討されており、状況をふまえて地域交流室の活用や、可能な中での区民との交流を進めることを期待。<br>・行事や地域との交流が活発に行われていることが、広報から伝わる。<br>・自治会活動も縮小されているので、もう少し時間がかかるのでは。 | | ・初詣や獅子舞、現在企画しているお花見では、工夫をしながら戻せる部分は元に戻しています。<br>・地域交流室は住民さんも含めて様々な用途に使いたいという当初の目的を達しておらず、来年度は少しでも活用する場を作りたいと思います。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | B | 中学校の職場体験学習、県社協主催の高校生インターンシップを受入れ、若い世代に介護職の魅力を伝えた。ふきのとうカフェ（認知症カフェ）や認知症キャラバンメイトの活動に職員を派遣している。コロナ禍で今後の地域とのつながりが不安。 | | ・認知症の理解を広める努力がよく分かった。 | ・認知症キャラバンメイトの職員を増やす予定。 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | B | 今年度は書面開2回、対面開催3回。運営状況、ヒヤリハット・事故・苦情報告、感染対策、職員研修状況等を報告。事故の分析、地域との災害に備えた連絡体制等、意見を基にサービス向上に取り組んできた。 | ・介護事故、投薬における確認を自己分析・意見交換して事故件数の減少に努めてほしい。<br>・毎回の会議で、ヒヤリハット・事故の中で大事がなくて良かったと思う。毎回報告されている薬や転倒事故は、引き続き改善策、確認方法を検討ください。<br>・物価高により、運営面が厳しいのではないかと察する。<br>・運営推進会議を活かして、外部評価の機会にもなり、さらにサービスの向上につながっている。 | | ・ヒヤリハット・事故は運営推進会議でありのままに報告し、オープンな施設運営に努めています。<br>・薬と転倒の事故をゼロにするのは難しいが、事故の原因をふり返り、防げるものを防ぎたい。<br>・運営推進会議によるサービス評価は、多面的な意見をいただけるので、質向上につながっています。<br>・県内でも低い利用料を維持していますが、物価高が続くと、影響は大きくなると思います。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | A | 自治体の規模が小さく、竜王町職員と顔の見える関係ができている。地域包括支援センターに運営推進会議委員を依頼。コロナ渦の対応も緊密に連携を取っている。町より「地域の身近な介護相談窓口」や認知症カフェの運営を受託。 | ・行政との関係は良好と聞いているが、コロナ禍における施設運営は、行政指導に頼ることなく、現下の感染状況を見極め、引き続き慎重に運営してほしい。 | | ・良い関係でありつつも、介護・支援の実施においては専門職の立場を伝えられる関係でありたいと思います。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | A | 身体拘束該当事例はない。身体拘束適正化委員会を年4回以上実施。各事業所の身体拘束の芽になりかねない課題を検討し、職員の意識向上に努めている。玄関は夜間以外開錠。 | ・全職員が徹底して、意識向上を図っている。<br>・事例がないと言うことなので、現状を維持するような努力を引き続きお願いしたい。なお、利用者の中に日常行動に問題のある方(徘徊や暴力)も出てくるので、日頃から課題のある方の介護の研鑽に努めてください。<br>・玄関や非常口の出入りについては、体感センサー設置など、検討してください。<br>・予測できない行動がある方々が、安心して暮らせていることには、大変な努力があるのだと思う。 | | ・いわゆる行動心理症状(問題行動)のある方は、抑制が先行するとうまくいかず、ケアと医療が両輪で支援するのが望ましいと思っています。難しいケースでは職員の研修を進めていきます。<br>・玄関開放を原則としてのセンサー設置は、機械的にまだまだなところがあります。一人で外に出るリスクのある方がおられる時期は、センサー設置や門扉の閉鎖を検討します。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | A | 職員会議を活用して、認知症の人の思いによりそうケア、グレーゾーンのケアの学ぶ研修をした。私たちの関わり方や声かけが、入居者にとっては怖かったり、行動制限と感じたりする場面があるという危機感を忘れず、意識を高め続けたい。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | | 委員からのご質問 | | グループホームからの回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 職員アンケート | 実践状況 | 外部評価項目 | その他の項目 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する説明と納得<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | B | 制度を利用する入居者は現在いない。社会福祉士である管理者は、必要に応じて入居者・家族に情報提供できるよう学びを継続して準備している。職員への研修も会議を通して実施。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | A | 契約時は時間をかけて説明し、理解納得いただけるよう努めている。今年度は加算の制度改正があったが、直接説明して同意を得ている。利用料表や入居のしおりは見直しを加えて、分かりやすいようにしている。 | | | |
| 10 | （6） | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | B | 3ヶ月ごとの介護計画説明時、年1回の個別懇談を軸に意見把握に努力し、面談結果を運営推進会議に報告している。家族への連絡体制、LINEの活用状況に応じた面会検討等、家族の意見から改善した。 | ・コロナ禍でも家族との連絡や面会対応が改善されており。家族もとても良かったと感じた。<br>・ガラス越しでの家族との対面を増やすのが良いのでは。<br>・コロナ禍を考慮して取組んでいるが、直接面会ができるように、希望者はコロナウイルス検査も合わせて対応できると良かった。 | | ・ガラス越しの面会は、声が届きにくい欠点があり、機器を導入すれば解決したかもしれませんが、そこに至りませんでした。<br>・感染拡大時に検査陰性をもって面会許可した人はいる。ただ拡大時は感染対応も多忙で、検査をご家族にお勧めする余裕がありませんでした。 |
| 11 | （7） | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | B | 年2回、職員面談では意見や提案を聞く場も設けている。職員会議でグループワークをして意見が出やすいようにしている。風通しの良さ、実行の早さが小規模の強み。休憩の改善、浴室リフト吊り下げ具の改善、全体会議の実施、パン食等、職員の提案から実施。 | ・職員のモチベーションを上げる工夫も必要です。年に1回は、施設の向上に関して優秀な改善案を提起した方に、ささやかな奨励賞を設けては。<br>・1番館は機械入浴設備がないようですので、増設の検討はできませんか。職員さんの手間や労力も大変ですね。 | | ・奨励賞を設けている介護事業所もあると聞いています。働きやすい、働きたい職場になるために何ができるか、法人全体で考えます。<br>・1番館の浴室は老朽化が進んでいるのと、壁面の強度の関係で、リフトを後付けするのが困難です。今のケアの工夫とともに、将来の整備も検討を進めます。 |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | C | 年に2回、個別面談を行い、働き方の希望や心配事の把握、目標到達度等を聞き取っている。介護職員等ベースアップ等支援加算が導入され、処遇改善は前進した。組織が大きくなったことで、現場の思いを吸い上げるためのリーダー層の役割が十分整理できていない。 | | | ・職員の自己評価が低かったことを真摯に受けとめます。<br>・休憩確保や業務標準化といった労働環境の改善。知識や考え方の研修によるストレスの緩和。日頃からの職員とのコミュニケーションに取組みます。<br>・給与水準は職員のモチベーションにつながるので、経営状況をうまく伝えていきたいです。 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | A | コロナ禍にあっても、オンライン環境を整備して研修に積極的に派遣している。認知症ケアの質向上を主に、一人ひとりに適した研修参加を行っている。新規採用職員の育成プログラムを改定した。定期的に面談をし、心配ごとや課題を話している。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | B | 町内の医療・保健・福祉関係者の勉強会「ぽちぽちねっと」、近隣7グループホーム合同の勉強会、東近江圏域のグループホーム部会を軸に、同業者と顔の見える関係を築き、各現場の生の声に刺激を受けている。 | | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | A | 入居から1ヶ月程度は特にコミュニケーションを密にし、職員間で情報共有をし、関係作りをしている。地元出身・在住の職員が多く、昔話や地元の話題に安心感を抱かれる新規入居者は多い。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | A | 契約前の自宅訪問、面接を重視し、ご家族の思いが理解できるよう努めている。入居後も特に初期は意識して面会時に要望等を聞き取りする。最初の介護計画説明時と、入居3～6ヶ月目に面談を行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | | 委員からのご質問 | | グループホームからの回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 職員アンケート | 実践状況 | 外部評価項目 | その他の項目 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | A | 本人の力、家族を含め本人を取り巻く資源の力を丁寧にアセスメントし、こまめに支援内容を調整している。自宅でのケアマネジャーやサービス事業所にも、経過を見ながら助言を求めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | A | わが家のようにしゃべってもらい、入居者とともに喜び、悩みたいと職員は思っている。ともに家事をしたりしていると、支援される人という思いは自然に消えている。自然な所が、グループホームの良さだと思う。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | B | ご家族はケアに不可欠な存在。外出、受診介助、物品補充等、家族が関わってもらえるようお願いしている。ウィズ・コロナへ移行する局面であり、その時に応じて可能な限り面会の機会を提供できるようにした。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | B | コロナ禍で制限はあるが、認知症の症状悪化や、看とり期が近づく方を中心に、家への帰宅、家族との外出が実現できるよう支援した。同法人のグループホームにいる知人との交流も増えた。文化祭や初詣等、感染リスクを下げながら再開した外出もある。 | ・コロナ禍で散歩程度しかできないでしょうが、幼稚園や小学校、学童が近くにあるので、可能な範囲で子どもたちの活動を見られないでしょうか。冬期は小学生の校外マラソンの見学(学校から惣四郎川の区間)、土日ではサッカーなどの子どもたちの活動を見学しては。<br>・コロナ禍におけるご利用者の安全確保とQOLの向上は両立が難しいが、工夫や良い手法の検討を継続してほしい。 | | ・3月になって散歩に行く日も増えてきました。グランドの横まで行くと、子どもたちが手を振ってくれました。マラソンの応援、ぜひしたいです。<br>・ウイズコロナの動きを注意深く見て、入居者となじみの人、場所とのつながりの再開を模索する。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | B | リビングでは入居者間の関係に配慮し、居心地の良い環境づくりに努めている。認知症からくる混乱や不安から、入居者同士が対立する場面もあるが、介護計画によって個々を支援して、解決をめざしている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | B | 入院から療養病床への転院が検討されたケースがあり、家族の思いを聞きながら、どこで過ごすことがその方の望むことなのか一緒に考えた。 | | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | A | ご本人の意向は日常の関わりの中で把握し、必要な時はじっくりお話しして確認するようにしている。家族の意向は懇談を中心に把握。「認知症だから分からない」と思わずに、その方が困っていること、嬉しいことを知ろうという姿勢でいたい。 | ・いつも訪問すると細やかに情報提供してくれる。またどうすれば暮らしが豊かになるかを考えている気持ちを感じている。<br>・人としての尊厳を大切にしながら、利用者と関わり、支援している。<br>・一日一日が楽しい日々にしてあげてください。 | | ・評価を嬉しく思います。入居者の思いを温かい気持ちで知ろうとし、困りごとをサポートしたいと思います。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | B | 入居前後の面接でこれまでの暮らし、認知症発症からの経過等を詳しく聞き取り、記録している。これらを活かして本人との関係を築いたり、サービスの工夫につなげている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | B | 本人の能力をあきらめず、力を発揮していただきたいと考え、家事や軽作業を入居者とともに行っている。職員会議では様々な職員の視点を出し合い、それぞれの心身の状態、できること、思いがけない発見等を共有するようにしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | | 委員からのご質問 | | グループホームからの回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 職員アンケート | 実践状況 | 外部評価項目 | その他の項目 | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | B | 介護職員が入居者目線でアセスメントしてケアマネジャーと話し合い、それを介護計画として形にしていくのが希望の家のスタイル。介護計画は少なくとも3ヶ月に一度は見直し、家族に面談して説明、同意を得ている。 | ・特定の職員に任せっきりにならないように、可能な限り複数の者がチェックし、利用者の意に沿う介護計画策定に努めてください。 | | ・アセスメントをしっかりすることは、職員のレベルを上げることにもつながるので、多くの職員が参加し、考えられるようにしていく。<br>・介護計画の検討は多くの職員が出席し、計画の実施状況もこまめにできるのが小規模事業所の良いところです。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | B | 記録を詳細に記し、申し送りや職員会議で情報を共有している。職員会議の2／3は介護計画検討に割いており、職員の情報共有から、迅速に計画が変更できるようにしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | B | 歯科関係やリハビリ専門職とは連携可能な体制があり、ニーズに臨機応変に応えている。コロナ禍で制限があっても、家族との関係の中でできることがあれば、食事会やドライブなど実現できる方法を柔軟に考えた。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | B | 入居者個々の地元自治会から、直接または家族づてに見舞いが届くことがある。学童や幼稚園とはコロナ禍で直接交流ができないが、手紙のやりとりがある。公民館や地域行事への外出は少し再開したが、感染リスクを下げるため他者と関わることを避けている現状がとても残念。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | A | 入居時に主治医の継続か、協力医療機関への転医か選択してもらっている。現在は全員が協力医療機関による健康管理（月1回往診と月3回の訪問看護）を選択。専門医等の受診は家族の協力を得ながら進めている。 | ・かかりつけ医が入居前から受診している病院なので、安心してホームで診てもらえる。何かあれば連絡があり、往診などの対応をしてもらえる。<br>・この医療との連携を継続してほしい。 | | ・弓削メディカルクリニック様には24時間、365日対応をしていただき、日頃の相談も気軽に乗ってもらえるので、私たちも安心です。 |
| 31 | | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | A | 月に3回の訪問看護により、担当の訪問看護師と連携を密に支援している。入居者の状態もよく把握してもらっている。介護職の小さな気づきも、遠慮せずに質問や相談ができる関係にある。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | B | 病院ごとの対応の違いに戸惑うことがあるが、入院の度にこまめに足を運んで関係を作るようにしている。本人や家族と病院をつなぐ役割を心がけ、スムーズなグループホーム復帰を目指している。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | A | 希望があれば、家族や医療機関と密な連携のもと、満足できる看取りの介護をめざして支援。入居時に、重度化・終末期ケアに関する指針について説明、同意を得ている。終末期には改めて意向を確認。毎年の家族懇談でも思いを聞いている。職員の達成感も高い。 | ・毎年、家族に終末期に対する思いや希望を聞いてくれるので、家族も一年間無事に過ごせた喜びと、今後に向けた考えを整理する時間になっている。<br>・終末期には、早めに家族のもとに。<br>・家族の意向をふまえて、良い終末期支援を行えている。 | | ・家族面談をこのように評価いただき、ありがたくお思いました。お看とりについて、どのご家族も我がこととして考えてくださり、支援の道筋がつきます。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | B | 1日のうち10時間30分が1人勤務であり、職員が不安を感じない体制を作っている。急変や事故時に職員が苦労しないよう、24時間、緊急時対応ができるようにしている。採用時に説明するとともに、職員会議で研修や訓練を実施。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | | 委員からのご質問 | | グループホームからの回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 職員アンケート | 実践状況 | 外部評価項目 | その他の項目 | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | B | 地元自治会や近隣とは開設から16年間に積み上げた協力関係がある。消防訓練は年2回（1回は防災訓練を兼ねる）。自治会とLINEによる連絡体制、防災行政無線設置が実現。非常災害対策計画に基づき、備蓄品のチェックを実施。 | ・自治会との連携により、防災訓練や連絡体制も問題ない。<br>・地域との連携体制もあり、よくできている。<br>・自治会や近隣住民との関係を密にし、災害時に備えるとともに、緊急時の支援体制のあり方について、区民の理解と協力が得られるように毎年確認をする必要がある。自治会役員交代や、組織体制変更などに対処してほしい。 | | ・自治会の役員さんもそうですが、グループホームの職員体制も毎年変わっていくので、毎年の連携方法確認について、自治会様に教えていただけると幸いです。<br>・来年度は、事業継続計画（BCP）の見直し・整備に取組みます。 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | B | 職員の評価は高めである。けれども認知症の入居者は傷ついたことを訴えることができない。親しみのある関係が行きすぎて、入居者を試したり、恥ずかしい思いをさせていないか、振り返る意識が大切だと思う。 | ・今ある、利用者と職員の良い関係性を、立ち止まり、見直そうとする姿勢は大切だと思う。<br>・長寿社会にあって認知症は、避けて通ることができない病。認知症のことを誰よりも理解されている施設職員が、良き理解者であるとの認識をもって、介護してほしい。<br>・日々の生活の中で気づかないこともあり、また利用者それぞれの思いも違うこともあるので難しいとは思うが、いち場面のふり返る機会を定期的に作って話し合ったりしてはどうか。<br>・入居者の顔をよく見ながらつきあっていく必要がある。 | | ・「私たちは認知症の人の良き理解者」これを胸に刻み、困難なケースの理解・支援にも取組んでいきます。<br>・「いち場面をふり返る」私たちはチームでケアをしているので、時にこのように話し合うことが大事です。ご意見ありがとうございます。<br>・グレーゾーンのケアについて、会議でご意見いただきました。職員を押さえつけるのではなく、入居者を尊重するケアの先に、望ましいケアのあるグループホームになるのだと思います。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | B | 小さな集団で長い時をともに過ごす。だからこそ表情や動きで感じ取れることがある。小さなサインに気付き、意思表示がしにくくなっている方の思いにも応えていきたい。言葉を大切に聞き取ることは当たり前のようで難しい。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | A | 入居者の生活の流れに職員が合わせていく方が入居者の混乱もなく、穏やかな暮らしとなる。注意しないと職員の都合になりがちであると意識している。散歩や体操、創作活動等は固い計画を作らず、その日のご様子を見て実施。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | B | 髪形や髭剃りといった日常の身だしなみにも気配りを大切に、衣服はおしゃれを楽しめるよう努力している。化粧品は家族の協力を得て本人の思いに沿うようにしている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | B | 毎食自施設調理。音や匂いを感じながら入居者とともに食事を楽しむようにしている。食器拭きは毎食入居者が、可能な日は準備にも参加。七草粥、節分、お彼岸や十五夜等、季節に合わせた食事もともに作っている。 | ・できることを手伝ってもらっているのは手指運動にもなり、認知症の進行を抑えることにもなる。<br>・手足を動かすことは良いことだと思う。<br>・五感の一つである味覚を楽しんでもらえる食事づくり、献立づくりに努めていただき感謝。<br>・昔ながらの家庭での食事づくりを、日常活動の中に活かし、可能な範囲で利用者自らが調理に参画していることで、人としての役割を見出すことになるので、大変有意義。 | | ・その時の入居者の状態にもよりますが、炒め物をしたり、調理している横で見守ったり、洗い物をしたり、今は入居者が参加している幅が広いように思います。<br>・生き生きとした顔で家事をされているのを見ると、嬉しくなります。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | B | 体重や嚥下機能、希望等をふまえ、食事形態や量を考えている。水分が少ない方は、種類やタイミングを工夫。協力医療機関の言語聴覚士や栄養士に相談もできる。食事量や水分量を毎回記録。体重測定は月1回。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | B | 口腔衛生管理体制加算算定。毎月、歯科衛生士の指導があり、その方に応じた口腔ケアを実施。必要に応じ、協力医療機関の歯科の往診が可能。義歯は定期的に洗浄剤で消毒洗浄。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | | 委員からのご質問 | | グループホームからの回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 職員アンケート | 実践状況 | 外部評価項目 | その他の項目 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | B | 15名がリハビリパンツやオムツ使用。時間を決めず、一人一人に応じてトイレに行く等、個別の排泄介護に努めている。ポータブルトイレの使用も極力少なくしている。排泄用具は進化し、考え方も変化しているので、最新の知識・技術を取り入れたい。 | ・排泄の自立を継続させるのは、たいへん難しい一面があると思う。個々の時間に合わせると、人も手間もかかると思うが、利用者の思いに沿っての活動に感謝。<br>・とても大変な支援を、丁寧にしてもらっている。個別性のある対応になるので、研修等の機会を持てると良いと思う。 | | ・人が生きるのに、排泄は重要です。そして恥ずかしい。嫌な思いが少なくなるようにしたいと思います。<br>・排泄の理解、オムツ等の用具を学ぶ機会を考えてみます。 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | B | 下剤を第一選択としないように、牛乳や乳製品を活用している。野菜の多い食事、個別の介護計画で水分摂取を工夫するなど努力。重度化しても本人に負担のない範囲で、トイレで排泄できるよう取り組んでいる。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | B | 入居者・家族の希望に沿って、夜間の毎日入浴を始めた方がいる。多くは職員体制から入浴日や時間帯は決めざるを得ないが、週2～3回の入浴を基本に、その日の気分や急な体の汚れがあれば柔軟に対応。1対1の介護でおしゃべりもしながら、くつろげるお風呂となるようにしている。 | ・「入浴」 人は、生まれながらにして湯(水)に浸かる(浴びる)ことを喜びとしており、母親のお腹にいる時からであるが、五感の中でも触感でもあると思う。職員の人的対応の課題もあるが、可能な限り、利用者の要望に沿えるように努力願いたい。機械浴の方の入浴回数にも配慮してほしい。<br>・身体の休息になるので、入浴はなるべく増やしてもらえれば。<br>・入浴は楽しみのひとつ。全員が楽しく思えるような支援、工夫を継続してほしい。 | | ・マンパワーの限界があり、回数を増やすと1日あたりの人数が増えて慌ただしくなる、そんなジレンマがあります。<br>・「お風呂に行きたくない」と言う方が多いのが最近の特徴。嫌な思いはせずに、楽しんでもらうのは、なかなか苦労があります。<br>・機械浴の方が、他の人と比べて回数が少ないということはありません。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | B | その方の寝たい、起きたい時間に沿って対応。眠れないことが続けば、行動や心理状態の変化も踏まえて対応を考えている。日中は本人の体調や希望に合わせて、居室での昼寝など声かけしている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | B | 最新の薬情報は職員がすぐに確認できる場所に設置。薬剤師とは気軽に相談できる関係にある。薬関係の事故を防ぐため、表示方法や薬袋の変更といった工夫を続けている。ゼロにはできていないが、ヒヤリハットで防いでいるものもあるのが事実。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | B | 無理せず、できる範囲で家事や軽作業への参加を支援。役割があることが生きがいになるようにと思っている。嗜好品（酒・煙草）は希望者は家族と話し合いながら実現している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | | コロナ禍で外出が制限されており、評価のランクはつけていない。散歩は継続していて、外の空気を吸う良い機会として大切にしている。ユニット間や、同法人のグループホームとの交流は、知人と出会う機会ともなって喜ばれている。 | ・引き続き、本人、家族の理解の中で継続ください。<br>・屋外散歩は、季節に応じて視覚、聴覚、嗅覚などを体感できる良い機会なので、コロナ禍にあっても外気に接する機会を考えてください。<br>・温かくなったら、散歩回数を増やされたらいいと思う。 | | ・来年度は外出制限が緩和される1年と思って、感染予防を講じつつ、外出を段階的に進めたい。<br>・ご自宅など、入居者にとって大事な場所への外出は、先行して取組みを進めています。<br>・外出行事の再開に当たっては、ご家族の意向確認をする。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | | コロナ禍でお金を使用する場に出かけられず、評価のランクはつけていない。管理する力のある方、所持することで安心感が得られる方は、ご家族と相談の上、金銭所持が可能。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | C | 手紙が届くことや、電話がかかってくることはあるが、こちらからすることがないので評価が低い。LINEを使用されるご家族が増え、動画通話される機会も増えつつある。携帯電話を所持者は現在2名。キーパーソン以外の近親者に広報と写真を送っている。 | | | ・評価は低いが、必要な人には家族とつながる支援ができていると、職員に自信を持ってもらいたい。また手紙や電話に取組んでみたい人が他にいないか確認したい。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | | 委員からのご質問 | | グループホームからの回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 職員アンケート | 実践状況 | 外部評価項目 | その他の項目 | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | B | 清潔さと快適な匂いで、従来の介護施設の印象から脱却したいと努力している。日差し、外気に気を配りながら、室温や明るさのこまめな調整を心がけている。四季の花、飾り物で季節を感じていただきたいと思っている。 | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | B | 共用空間のレイアウトは固定観念を持たず、今年度も必要に応じて大胆に見直した。入居者は思い思いの場所で過ごしている。地域交流室は家族での会食等、自由な使い方が可能。回数は少ないが活用されることが今年度はあった。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | B | 個人差はあるが、自宅で慣れ親しんだ家具や飾り物等を持参されている。入居後の生活に合わせて工夫しながら、写真を飾ったり、できるだけ居心地の良い空間となるよう努めている。 | ・入居者には癒やしのものとなると思う。 | | ・「みんなで過ごすリビングに出て来られるのが当たり前」という考えは、職員の中で少なくなっている。居室で過ごすことが主になるのも、その方の望むことなら支援したい。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | B | ややこしい表示の目隠し、スイッチ類の解説の表示など、必要に応じて改善。入居者の視点の高さや認知機能に配慮して工夫を続けたい。 | | | |